テクノエイド（中級）研修会

優良賞

ご利用者の身体状況に合わせた安全な移乗を目指して

富士見高原医療福祉センター
老人保健施設すずたけ　入所2階
黒河内　真美

施設概要

- 平成15年4月開設
- 入所定員80名
- 4フロアーに分かれており、1フロアー20名
- 従来型多床室（うち1フロアーに個室が2室）
- 構内に診療所、施設内に訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設

事例概要と課題

対象者：90歳代　男性　身長約160cm　体重約60kg

移乗：立位保持は行えず、スライディングボードで2人介助

皮膚が弱く過去に移乗介助で皮下出血が何度かできてしまっている

＜課題＞

- 体格が大きく、介助時に職員の身体的負担が大きい。
- 皮膚が弱く、移乗時に皮下出血等の皮膚トラブルが起こりやすい。
- 座位を支えていないと保持ができず、スライディングボードでの移乗は職員が2人いないと行えない。リフトは職員が使い慣れておらず、操作に不安がある。

課題に対する対策

職員の身体的負担の軽減やご利用者の皮膚トラブル回避のため、ご本人の身体能力や状況に合わせた移乗方法の検討

リフト操作に対しての不安を解消する

- スライディングボードを使用した移乗から、床走行リフトを使用した移乗へ変更。
- リハビリ職員からリフトの操作方法について直接学び実践していく。

対策実施後の結果

- リフトの活用により、身体的負担が大幅に軽減。介助者の腰痛予防にもつながった。
- ご利用者は当初、不安な様子であったが、最近では「怖くないですよ」とリフト移乗に慣れて安心されている。
- リフト使用後、移乗時の皮膚トラブルはみられていない。
- 1人での操作が可能であり、他職員とのタイミングに配慮が不要。
- リフトに対して「意外と楽」「とても良い」と良い印象を持つ人が多く、他の方にも活用できそうだとの意見も挙がった。
- リフトの活用は介助者とご利用者、お互いにとって良い方法であった。
- 身体状況のアセスメントからリフト活用の必要性を判断し、積極的に活用していきたい。